

第3分科会

『男女平等』は世界の流れ

変えよう社会と身の回り

助言者 内田 典子 (元大学非常勤講師)

司会 宍戸 久子

記録 前川 真津代



1. はじめに ～ 本分科会の目的

(1) 男女平等は世界の流れとなっているが、身近な問題から女性の生き方を考えていく。

(2) 母親大会の中での「女性問題」の位置づけを再確認し、男も女も生きやすい世の中をめざす。

(3) 「女性問題」は重いテーマと思われがちだが、社会の構造の問題という認識にたって、行政や制度の問題を考えていく。

2. 自己尊重トレーニング

自己尊重トレーニングとは、自己肯定感を高めるために、体や心をほぐして、自分の良いところをいっぱい実感して、心身をリラックスさせるワーク。

分科会参加者で、実際に体を動かして、このワークを体験しました。

3. 問題提起・・・ 助言者 内田典子氏より

(1) 新座母親大会と女性の生き方に関わる分科会について

1975年の新座母親大会発足時には、こども、家庭、平和、くらしの問題が多かった。しかし、国際婦人年をきっかけに、「母性愛神話」や「性別役割分担」など日常の生活の中で無意識に女性は男性より劣る低い存在と思い込まされ、位置づけられている社会状況の中で、女性の権利や生き方について考える機運が高まり、1978年の第4回大会から女性問題の分科会が設定された。このように新座は男女平等の重要性を早くから取り上げ、地域の母親大会の中で、先駆的な役割を果たしてきた。

(2) 世界の流れ、日本の状況

① 国際女性年のスローガン「平等、発展、平和」によって、「男女平等なくして平和なし」ということで、世界中で、女性差別撤廃の運動は広がってきている。しかし、現在も差別は解消されていない。

② 37年経って、法的整備は進んできたが、“頭の中”は変わらない。「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分業意識が男女ともに根強く存在し、女性の中にも無意識のうちに固定的意識を持っている人たちも多い。女性の問題は個人の問題ではなく、社会の問題であることを認識することが必要と思われる。

(3) 東日本大震災と女性

大きな災害の際の避難所や被災支援の取り組みでは、女性の視点にたった取り組みが遅れており、女性被災者に二次被害が起きている例もある。それを防ぐためには、支援体制や復興会議など支援、復興に向けての意思決定の場に女性が多く参加することが重要である。

(4) 男女平等に関する新座市の状況（経過、良い点、問題点）

- ① 新座の男女平等政策は進んでいる。しかし、行政の取り組みを支えるのは市民の力であり、「にいざ男女参画プラン」の先進性は新座市民の運動の賜物である。それには女性団体の運動と各公民館で取り組まれた女性講座は重要な役割を果たしてきた。
- ② 財政難を理由に女性講座が縮小されたことはとても残念であり、ぜひ復活をさせ、充実させていくとともに公民館利用を原則無料にさせるようにしていきたい。
- ③ 女性センターの存在感をアップさせる必要がある。

④ 行政機関での女性の登用は35%で、進んでいない。さらに進める必要がある。

(5) 男女平等を考える視点 ～身近な問題から男女平等を考える

① となりの人を差別することは戦争につながる。

② 男女平等は平和の基本。

③ 男も女も生きやすい社会をめざす。

4. 討論 ～ 参加者の発言から

A 退職して、地域活動に参加するようになりましたが、そのような場で、民主的な運動に携わっている男性からも「女は……」的な発言があり、妻を夫の所有物と思っているような感じを受けることが多々ありました。ジェンダーは世界の流れであり、女性問題の基本は人権問題であると思います。

助言者 女性問題は知識ではありません。生きる上での力を身につけることです。

地域を変える力にするために、それぞれの方の思いを出して共有していきたいと思います。

B 他の分科会では、ジェンダーの視点で話し合われているのでしょうか？ジェンダーの視点は、教育、家庭などあらゆる分野で貫かれるべき基本です。私は男女問題の本質は自分が自分らしくいることだと思っています。

C 正直に言うと、この分科会は重荷です。自分の要求としてはむしろ高齢者の問題です。日常的には男女問題を考えることは

あまりありませんね。

D 私は離婚してシングルなので、家庭生活の中では、あまり差別は感じていませんが、社会では、女性自身の中にもまだ差別意識があると思います。さきほど述べられた“頭の中”はなかなか変わらないように感じます。

司会者 個人的には、夫が病気で思うように仕事や活動ができなくなると、活動している妻にあたるなど確執もありました。今は乗り越えたように思いますが、長年にわたって染み付いた差別意識はなかなか解消できないようです。

B 私もいろいろな地域活動に関わっていますが、確かに差別意識は根強くあります。でも、地域活動に関わる中で、男も女も人は変わっていくのではないのでしょうか？

D 女性問題というと男女の対立ととらえられがちですが、男と女の対立ではなく、男も女もくらしやすい世の中を造ることが大切なのだと思います。

助言者 女性差別は社会の構造的な問題としてとらえることが必要です。

A 母親大会という名前の歴史を振り返ると、新座で続けていることの意味が明確になってきます。難しいテーマかもしれませんが、これからも新座の母親大会の中で男女平等に関する分科会を続けていくことは大事なことだと思います。

助言者 行政についてみると、ジェンダーの視点で防災計画の策定の見直しも必要となるし、女性の参画率を上げていくこともますます必要になってきます。

申し合わせ事項

1. 人間らしく豊に生きるために性の差別をなくし平等を実現しましょう。
2. 行政は市民の要望、要求によって方向性が作られていきます。すべての人がお互いに生かされ、共生、共存していかれる社会を築くため、行政に働きかけ声をあげ続けましょう。
3. 男性も女性もともに自立し支え合いながら、地域に参画しましょう。
4. 公民館等の講座に積極的に参加しましょう。

市への要望事項

1. DV 被害者の対象者を配偶者間だけでなく、恋人や知人などにも拡大する要望について、国への意見書を提出してください。
2. DV 被害者のシェルターを設置してください。
3. 女性センターの位置づけをもっと市民にアピールするために、「にいざほっとぷらざ」一階に「男女共同参画センター」のわかりやすい表示板を設置してください。
4. 民間、公立の両方について、正規雇用を増やしてください。
5. 「戦時性的強制被害者問題解決促進法」を速やかに採択するよう国に意見書を提出してください。
6. 公民館の使用料は原則無料に戻し、地域の誰もが安心して学び、集える場にしてください。
7. 社会教育としての男女平等に関する講座の充実を図り、男性が参加しやすいような工夫をしてください。
8. 市の防災計画策定に女性を参画させてください。
9. 町会等地域の防災組織に女性を参画させるよう促してください。